

鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)



パウロの言葉

「あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです」

聖書(第1コリント書6章19節)

牧師 河合裕志

あなたがたの体は神殿だと言う。これは驚き、思いがけないこと。神殿はどこそこにデンと立っている。動かない。体が神殿だとそうはゆかない。私という体は動きまわる、じっとしていない。それでも神殿なの？ そうでもいいらしい。パウロによればその内に聖霊が宿っているので。確かにそうであれば神殿と称してもいいのだろう。

聖霊とは何？ それは神の霊、またキリストの霊というもの。ペトロは言った。「イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、^{なまもの}賜物として聖霊を受けます」(使徒言行録2章38節)。洗礼を受けたものがクリスチャンと呼ばれ内に聖霊を宿す者となる。

またこの洗礼は「キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたち」(ローマ書6章3節)とあるようにキリストと結婚、合体すること。キリストの体の一部、キリストの所属となること。主人がキリストになる。従ってあなたがたの体は「もはや自分自身のものではないのです」ということに。この体の所有権の移転が起る。この移転の登記日が洗礼を受けた日。

私という体の主人公はキリスト。この方

が聖霊としてわが内に宿っている。この「体はみだらな行いのためではなく、主(キリスト)のためにあり、主は体のためにおられるのです」(1コリント6・13)。そしてパウロはみだらな行いの例を述べる。「キリストの体の一部を娼婦の体の一部としてもよいのか」(6・15)。

当時コリント市をのぞむアクラコリントス山頂に女神アフロディテを祭る神殿があり、そこに1千人余の娼婦がいた。参詣人が彼女らと交わることは普通に行われていた。そうした環境で育ってクリスチャンになった者がまた娼婦のところに行く、ということが見られたのだろう。そんなことがあってはいけませんよ、とパウロは強く戒める。キリストと結びつき、聖霊を宿す神殿とされている君よ、「みだらな行いを避けなさい」(6・18)、体を清く保て、「自分の体で神の栄光を現しなさい」(6・20)と呼びかける。

日本には今日、表向き娼婦はいないけれど実体は残っている。そうした所に通うことは避けたい。彼女らが正業につくことを願おう。男も女も体を清く保ち、神と人々に喜ばれるように体を用いて行きたいもの。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時